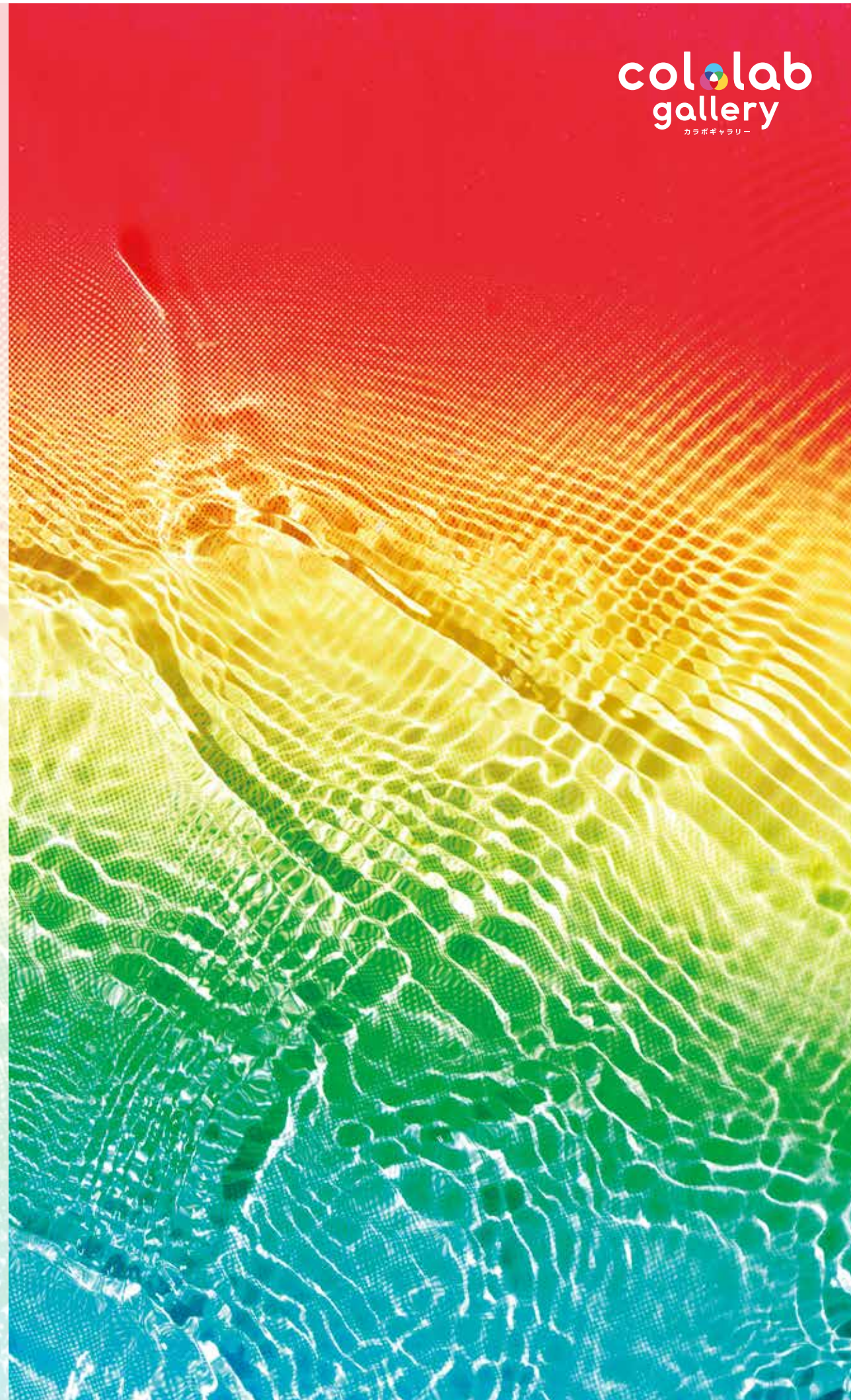


TAISUKE KOYAMA

cololab
gallery
カラボギャラリー



KOUGEI 東京工芸大学
文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」選定「色」で明日を創る・未来を学ぶ・世界を繋ぐKOUGEIカラーサイエンス&アート

TAISUKE KOYAMA

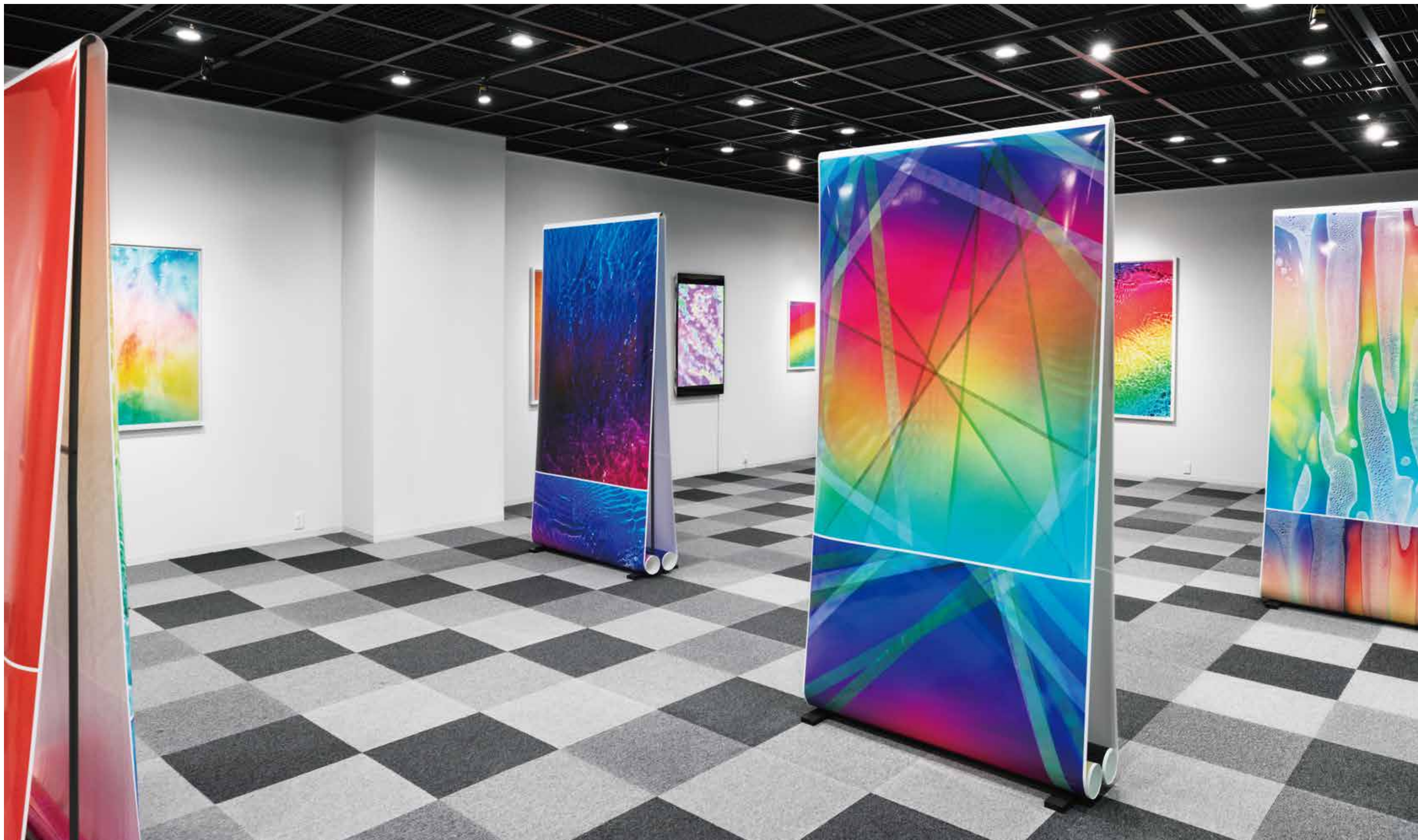


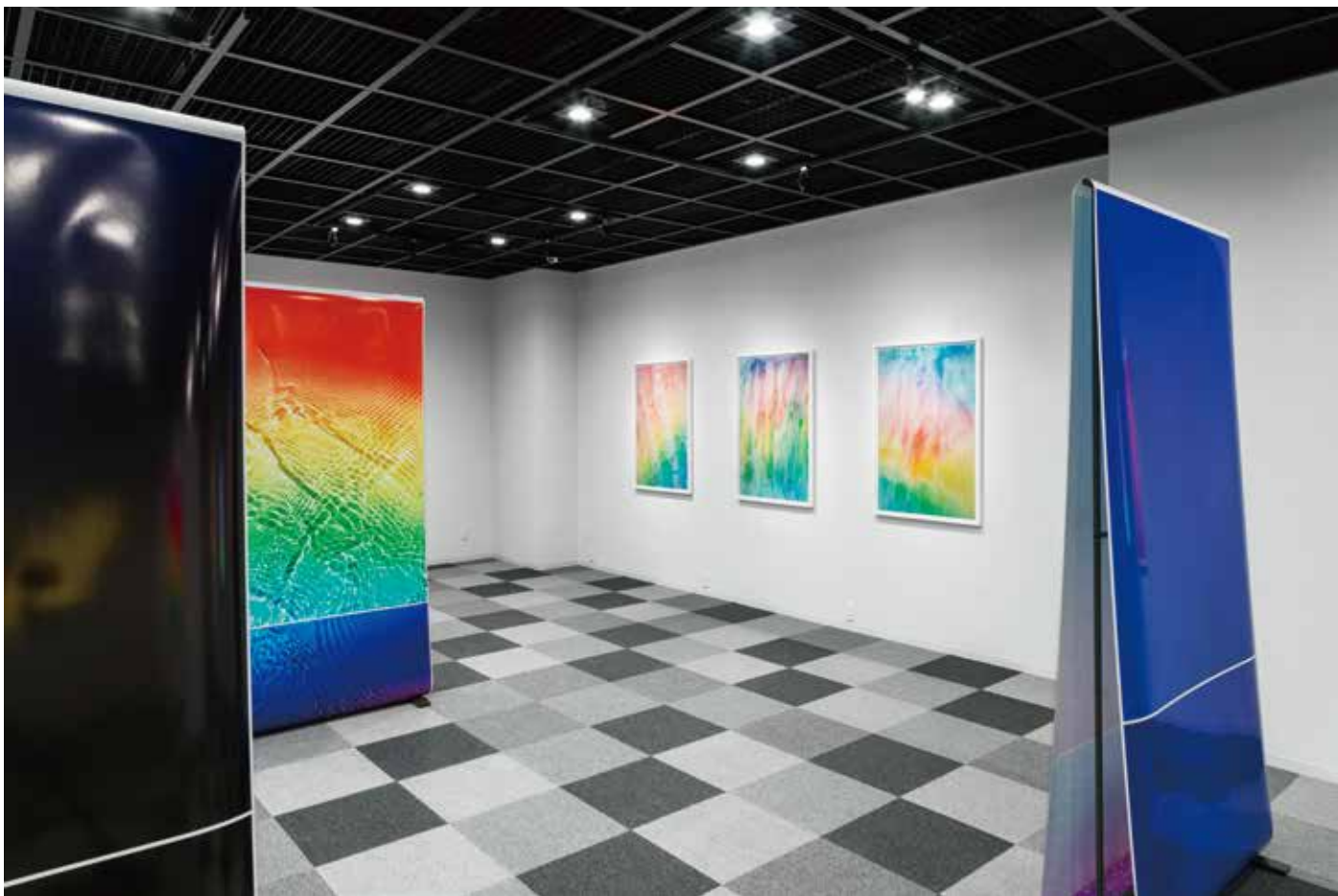
RAINBOW VARIATIONS

TAISUKE KOYAMA
RAINBOW VARIATIONS

2019.5.25 sat ▶ 10.26 sat

col.lab gallery
International Color Science and Art Center
Tokyo Polytechnic University







UNTITLED (RAINBOW FORM 02)
2009



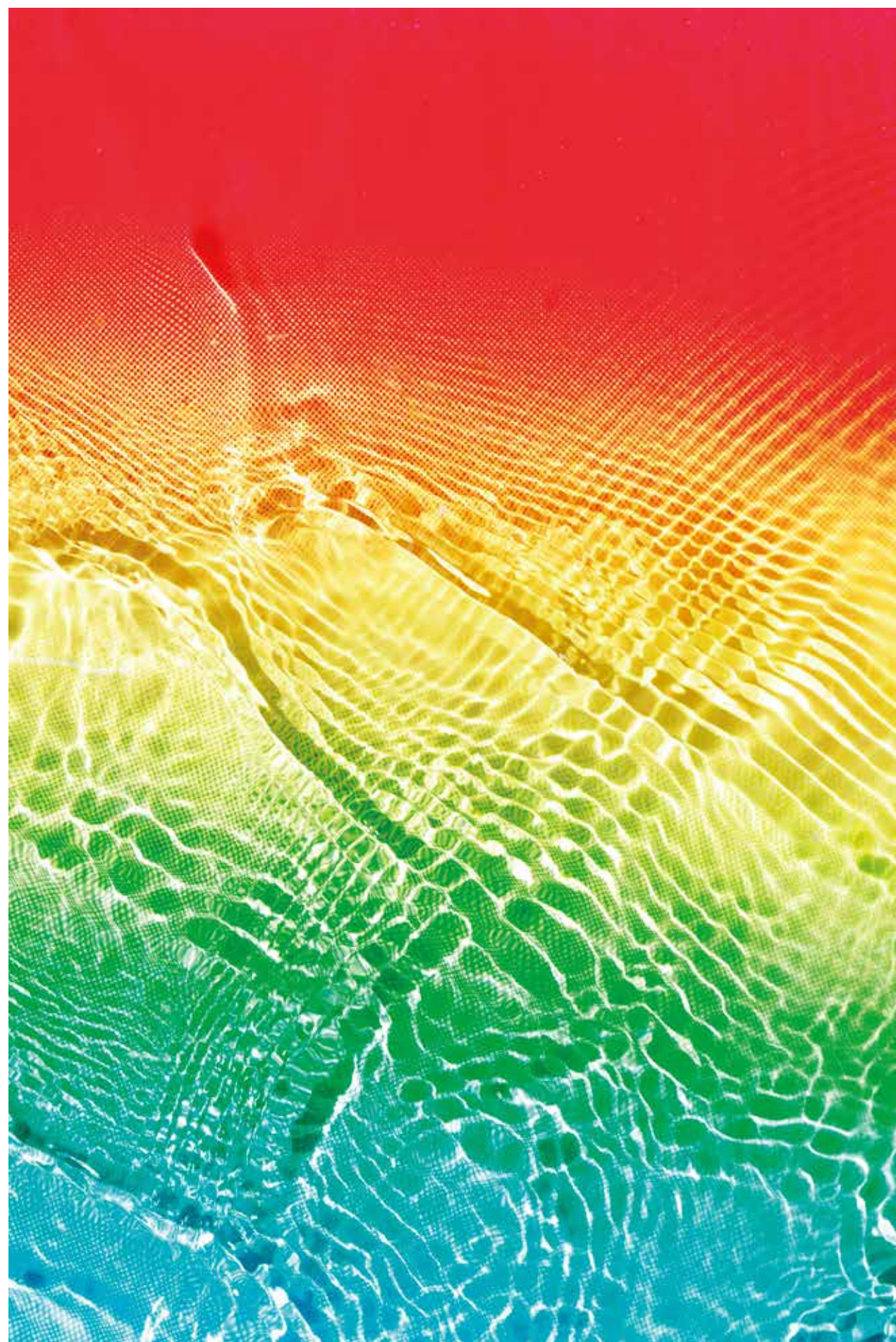
UNTITLED (RAINBOW FORM 11)
2009



UNTITLED (MELTING RAINBOWS 032)
2010



UNTITLED (MELTING RAINBOWS 105)
2010



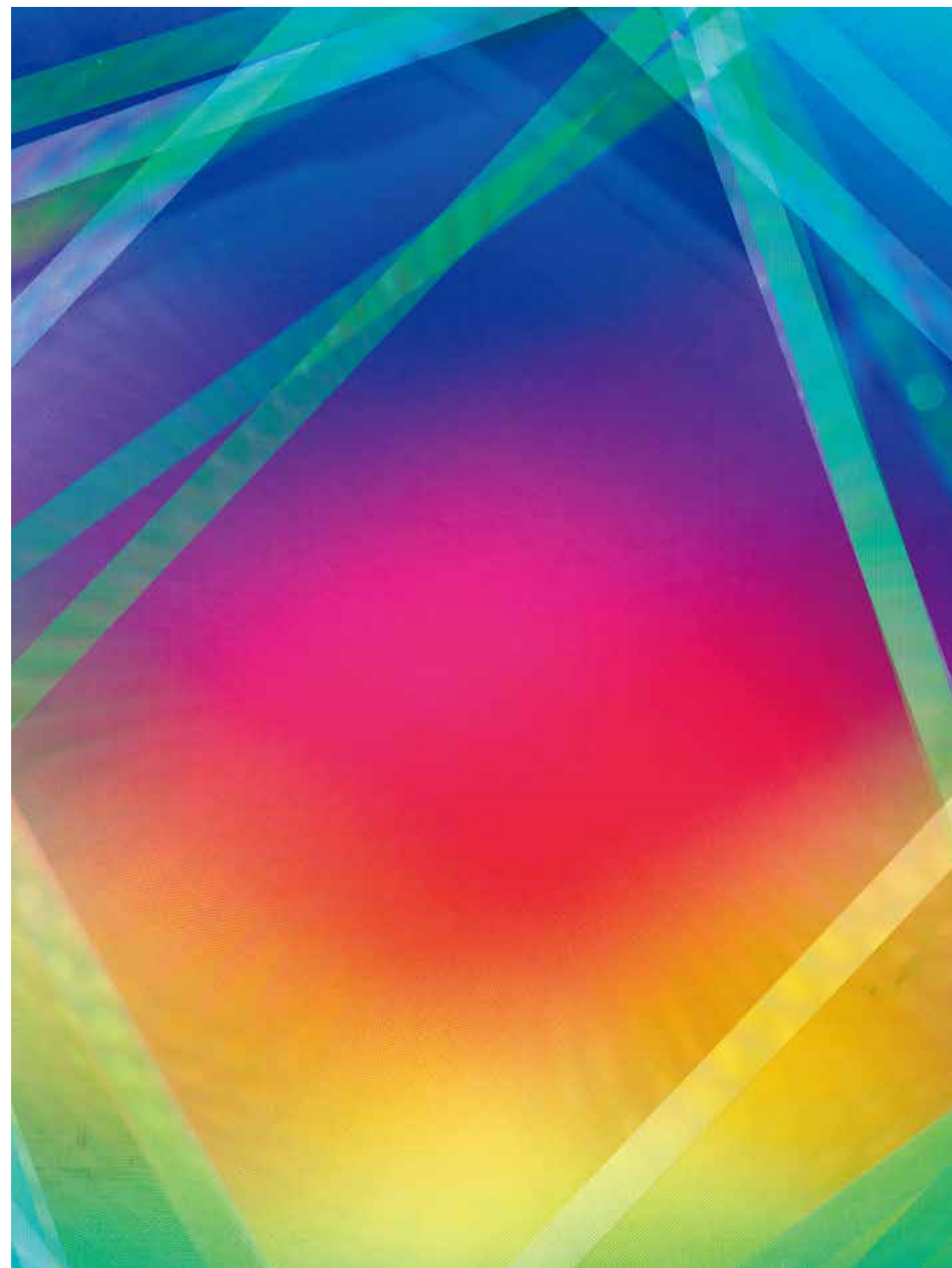
UNTITLED (RAINBOW WAVES 16)
2013



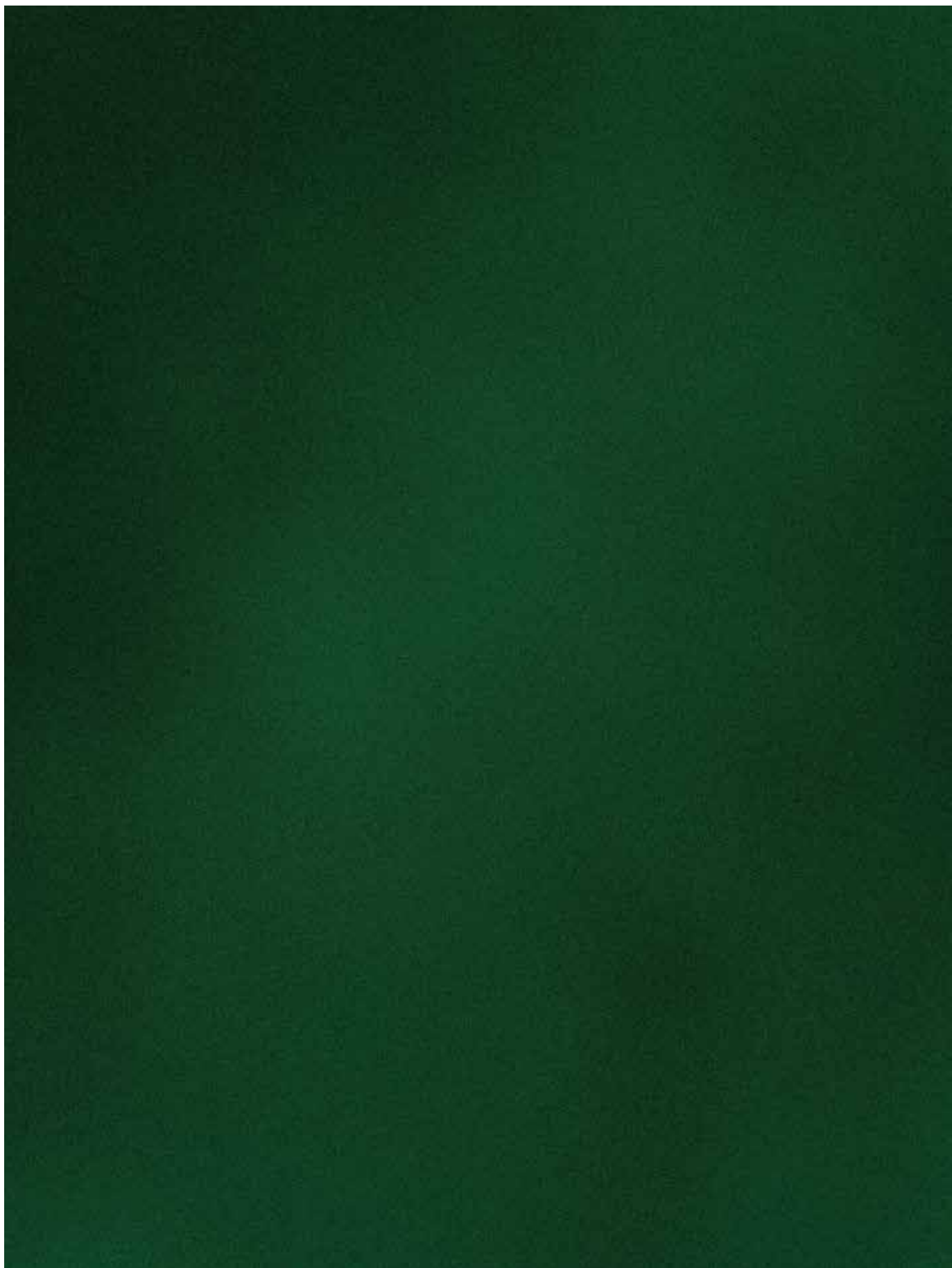
UNTITLED (RAINBOW WAVES 18)
2013



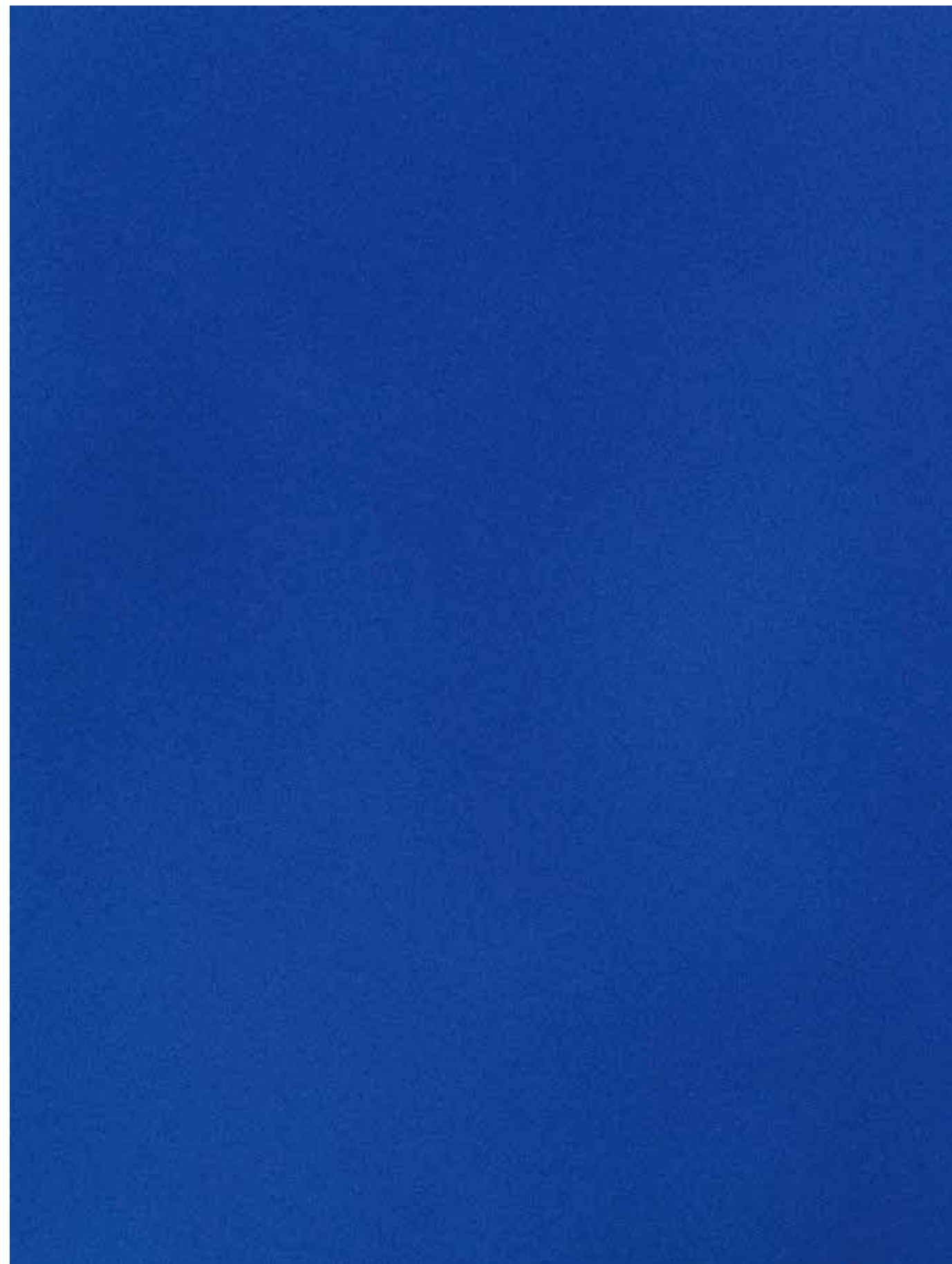
UNTITLED (SEVENTH DEPTH 079)
2014



UNTITLED (SEVENTH DEPTH 069)
2014



UNTITLED (PICO 003)
2015



UNTITLED (PICO 036)
2015



個展『Generated Images』
2016年4月15日～5月27日 大和日英基金ジャパンハウスギャラリー、ロンドン、イギリス



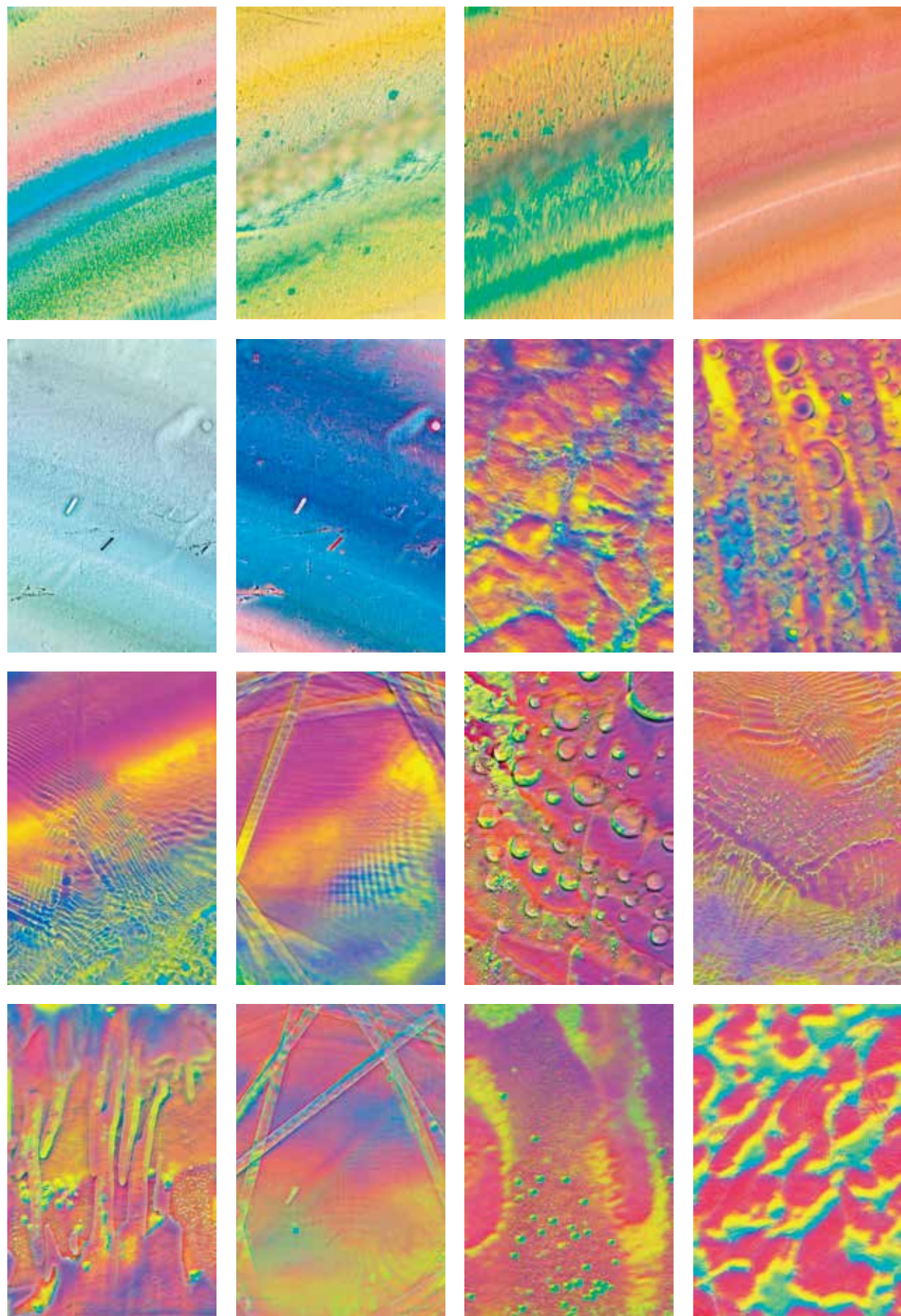
『AIMIA | AGO Photography Prize 2017』
2017年9月6日～2018年1月14日 オンタリオ美術館、トロント、カナダ



個展『Generated X』
2017年1月6日～2月26日 G/P gallery、東京



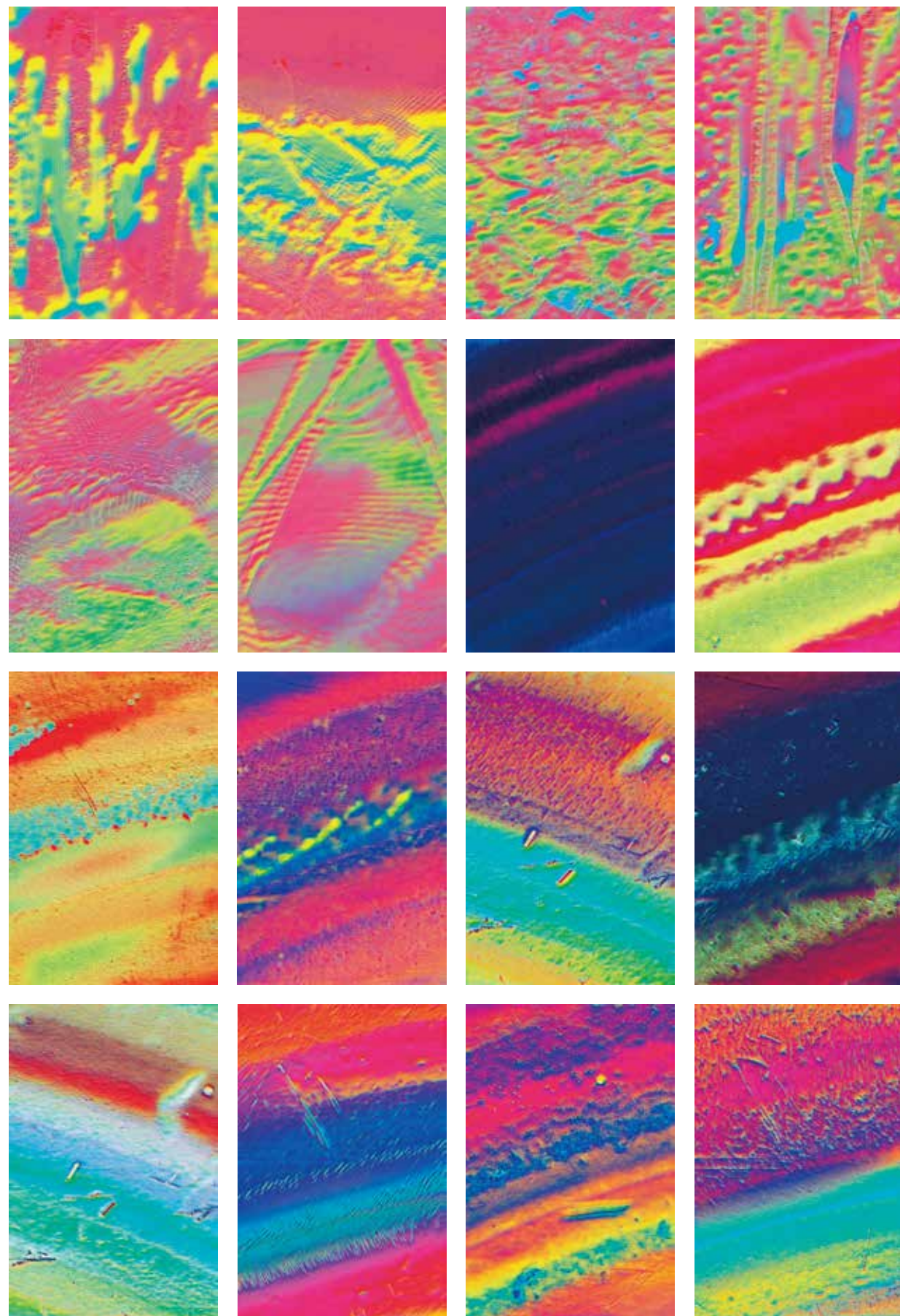
『ソウルフォトフェスティバル 2018 <BRAVE NEW WORLD>』
2018年11月1日～2019年2月10日 ソウル市立北ソウル美術館、ソウル、韓国



Taisuke Koyama × Yasuo Kuhara Special Collaboration

RAINBOW VARIATIONS: AI mutations(2019)

小山氏がこれまで取り組んできた作品と本学インタラクティブメディア学科久原泰雄教授による人工知能を応用したスペシャルコラボレーション作品。小山氏が制作した『MELTING RAINBOWS』(2010)、『RAINBOW WAVES』(2013)『SEVENTH DEPTH』(2014)の作品データをニューラルネットワークにディープラーニングで学習させ、他の作品と同様に『RAINBOW FORM』(2009)を変換し、新たに1033種のヴァリエーションを生成しました。



久原 泰雄 YASUO KUHARA

東京工芸大学芸術学部インタラクティブメディア学科教授。専門はジェネラティブアート、スケーラブルアート。代表的な作品として、リアルタイムに映像を絵画風に変換するAIアーティスト絵画ミラー、自動的に色合いが変化するインタラクティブ自動色塗り地図、障子から音と映像を生成するSpandex Shoji Synthesizer, つぶやきをレーザーハープで演奏するTweet Harp, ライフゲームから音楽生成するLife Game Orchestra, など。最近では人工知能を応用した芸術表現を研究し、作品制作を行っている。

写真の反覆可能性と生成可能性を探究することをコンセプトとした『RAINBOW VARIATIONS』は、虹色のポスターの一部をクローズアップ撮影した作品『RAINBOW FORM』を起点として、様々な状況／条件下で再撮影／再制作することによって新たなヴァリエーションを生み出していく作品です。小山氏は2009年に『RAINBOW FORM』シリーズを発表して以来、これまでに4つの写真作品シリーズと2つの映像作品を発表しています。『RAINBOW VARIATIONS』はこれまで、韓国やカナダの美術館などで展示され、都度、異なる組み合わせによるインスタレーションとして発表されました。小山氏にとって、展示インスタレーションも会場ごとに変化するヴァリエーションのひとつであり、本展はその最新形となります。

RAINBOW FORM (2009)

『RAINBOW FORM』は、東京の自動販売機に掲示された虹色のポスターの一部をクローズアップ撮影した作品。撮影された虹の表面は、傷や付着物、影や水滴といったノイズで覆われています。またその虹の色彩は大気中の水滴に反射した太陽光によってではなく、埋め尽くされた印刷ドットによって視覚化されています。小山氏は虹色の印刷物を複写した写真について、光学や科学の探究から発展した写真の歴史とも接続しうる、写真メディアの印刷物としての特性を象徴するヴィジュアル・ランゲージとしてとらえました。

RAINBOW WAVES (2013)

『RAINBOW WAVES』は『瀬戸内国際芸術祭2013』で発表されました。小豆島・坂手地区で滞在制作をした小山氏は、展示会場となる醤油倉庫蔵周辺の環境に着目し、『MELTING RAINBOWS』同様、自然現象がイメージ生成に及ぼす変換パラメーターを操作することによって作品を生み出しました。本作では、『RAINBOW FORM』シリーズのプリントを波打ち際に沈め、穏やかな波の波紋がもたらすレンズ効果によって、虹のイメージ要素ともいえる無数の印刷ドットが拡大／縮小される姿を撮影しました。

PICO (2015)

イタリア語で「小さい」を意味し、インクジェットプリンターのインク粒子の単位名でもある「ピコ」をタイトルとした本作は、デジタル環境において無限に抽出可能となったデータから新たなイメージを作り出すことを試んでいます。小山氏はハンドスキャナーやデジタルハンディ顕微鏡による入力とプリントアウトを複数回繰り返すことによって『RAINBOW FORM』のイメージを変換し、10x15ピクセルのモノカラー部分をクロップして1500倍に拡大することによって、イメージの細部の細部の細部から新たなイメージを生成しました。

小山 泰介 TAISUKE KOYAMA

写真家。1978年生まれ。生物学や自然環境について学んだ経験を背景に、実験的な制作方法を用いてポスト・デジタル時代におけるイメージメイキングの可能性を探究している。「瀬戸内国際芸術祭2013」や「あいちトリエンナーレ2016」をはじめ、国内外のアートフェスティバルやギャラリーでの個展・グループ展など、数多くの展示活動を行っている。文化庁新進芸術家海外研修制度を契機として2014年からロンドンとアムステルダムで計4年間活動し、現在は再び東京に拠点を移し活動中。 www.tiskkym.com

MELTING RAINBOWS (2010)

最初のヴァリエーション作品となった『MELTING RAINBOWS』で小山氏は自宅のベランダに『RAINBOW FORM』シリーズのインクジェットプリントを放置し、そのイメージが雨や雪によって融解していくプロセスを断続的に撮影しました。これまで都市環境や人工物の表面で起こる自然現象に着目してきた小山氏は、自然の力がイメージ生成に影響する状況をセットアップすることによって、イメージメイキングの過程に偶発的な変換作用を召喚し、変化していく現象のプロセスを作品化しました。

SEVENTH DEPTH (2014)

小山氏はこのシリーズから、ヴァリエーションの制作プロセスにデジタル技術を組み込みはじめました。『SEVENTH DEPTH』は、ハッセルブラッドの超高解像度デジタルカメラに備わったマルチショット・システムを誤用して制作しています。対象を連続して自動的に6回撮影することによって超高解像度データを生成するシステムを逆にとり、シャッターが切られる間に『RAINBOW FORM』シリーズのプリント2枚を重ねて動かし、ソフトウェアのエラーによって生成された擬似的な多重露光写真を生み出しました。

PICO-INFINITY (2016)

『PICO-INFINITY』は写真作品『PICO』を発展させた映像作品。本作で小山氏は写真の表示時間とディゾルブ時間を調整することによって、写真作品と写真作品の間でレンダリングされるイメージを可視化し、常に異なる順列で写真を表示させるプログラムを施すことによって、無限に新たなイメージが立ち現れる映像作品を制作しました。また本作と対をなす作品として、1秒間に10枚という速度で写真の色彩とテクスチャーが高速で変化し続ける映像作品『PICO -FLASH』も発表しています。 制作協力：Semitransparent Design



平成28年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に、本学の取り組みが支援対象として選定されました。事業名称は、『「色」で明日を創る・未来を学ぶ・世界を繋ぐ KOUGEIカラーサイエンス&アート』です。全国の私立大学から198件の申請があり、本学を含む40校の事業が採択されました。採択された本学の事業は、本学のルーツである写真、印刷、光学といった学問分野に根差し、今日の工学部と芸術学部の両学部に通ずる全学的な研究テーマとして、「色」を取り上げ、国内の大学では唯一となる「色の国際科学芸術研究センター」を形成するというものです。特に研究成果を、写真、映像、拡張現実、プロジェクションマッピング、コンピュータグラフィックス、マンガ、ゲーム等のメディアアートの手段によって情報発信することは、本学ならではの、そして本学にしかできないブランディングの取り組みだと思います。その活動の一環として、色の国際科学芸術研究センターに、国内で初となる「色」の常設ギャラリー（愛称：カラボギャラリー）を開設しました。このギャラリーでは、半年に1回、「色」に関するテーマを設定し、「色」のサイエンスを楽しく学ぶことができるメディアアート作品の企画展を行っています。1つの企画展の公開期間は半年としますが、途中、体験型ワークショップ等も開催します。子供から大人までの方々に、「色」の科学的芸術的な面白さや奥深さを体験していただければ幸いです。

学長
義江 龍一郎

1923年創立の「小西写真専門学校」をルーツとする本学は、日本で最も長い歴史と伝統を誇る写真教育機関でもあります。私たちは、これまでの伝統的な写真を重んじながら、現代の写真をリードする様々な取り組みも行っています。東京工芸大学色の国際科学芸術研究センター「カラボギャラリー」では、第4回企画展として、小山泰介氏個展『レインボー・ヴァリエーションズ』を開催いたします。小山氏はこれまで、科学的視点と実験的な制作方法を用いて、現代における写真の可能性を探究してきました。近年では、世界最大の写真アートフェア「PARIS PHOTO 2018」にて個展形式のプレゼンテーション『WAVES AND PARTICLES』を発表するなど、国内外で精力的に作家活動を展開しています。現代における写真は、小山氏の作品にも見て取れるように、様々な科学技術と相互に影響を与えながら急速にその表現を発展しています。現代の写真家は、ただ「美しい写真を撮ることができる」だけではなく、新しい技術に常に敏感にありながら、作品を通じて世界を知り、鑑賞者に新しい発見や問いを生むことができるような作品を制作することが求められています。『RAINBOW VARIATIONS』は、街中で発見した、色あざやかな虹色の広告ポスターを撮影した作品『Rainbow Form』を出発点に、自然の現象やデジタルデバイスの操作によってイメージを変化・変換させ、反復的に新たなヴァリエーションを生成するという試みです。小山氏の制作の根底にあるのは、新しい写真のあり方を模索していく強い好奇心と実験精神であり、それによって導き出されるイメージは、私たちの住むこの世界に、より多様な視点を提示してくれるでしょう。本展では、小山氏がこれまで取り組んできた作品と本学インタラクティブメディア学科 久原泰雄 教授の人工知能に関する研究のコラボレーションによって生まれた作品『RAINBOW VARIATIONS：AI mutations』も初公開されます。私たちは、色の国際科学芸術研究センター「カラボギャラリー」での企画を通じて、本学の建学時から追求し続けてきた、工と芸の融合した新しい写真の可能性について探究しています。

本展ディレクター 芸術学部写真学科 助教
川島 崇志

TAISUKE KOYAMA RAINBOW VARIATIONS

会期：2019年5月25日(土)～10月26日(土) 会場：東京工芸大学厚木キャンパス12号館2階カラボギャラリー

公式サイト： <http://www.color.t-kougei.ac.jp/gallery/>

主催：東京工芸大学 運営：色の国際科学芸術研究センター事業推進実行部会

展覧会ディレクション：川島崇志 展覧会アートディレクション・デザイン：川村貞知・岡田樹 ギャラリーロゴタイプ・サインデザイン：廣村正彰

展覧会内装：HIGURE 17・15 cas株式会社 ギャラリー施工：株式会社乃村工藝社 写真作品設営：石毛大介

広報ツール印刷：株式会社廣済堂 カタログ監修：川島崇志 カタログデザイン：川村貞知・岡田樹

発行者：東京工芸大学(代表) 〒243-0297 神奈川県厚木市飯山1583 TEL：046-242-4111 発行日：2019年6月

平成28年度文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」選定 「色」で明日を創る・未来を学ぶ・世界を繋ぐ KOUGEI カラーサイエンス&アート

KOUGEI
東京工芸大学 TOKYO POLYTECHNIC
UNIVERSITY